

インストール セレクタ (GETSETUP.EXE) の使い方

\$1. 序論

- (1) 64bit 版のソフトウェアの CD/DVD と 32bit 版のソフトウェアの CD/DVD とがあって、両方が入った 1枚の CD/DVD が欲しい、或いは、
- (2) 1枚の CD/DVD に (64bit 版のソフトウェアと 32bit 版のソフトウェアの) 両方が入っているのだが、(CD/DVD 装置に装填した時に) 黙って 32bit 版のソフトウェアのインストーラが起動するので困る、と云うような要望に (多少でも) 応えるものです。

\$2. 準備(その1)

PC の HDD/SSD 上の、(中身が空の) 適当なフォルダー (例えば) TEMP33 に、
「サブフォルダー (例えば) X64」と「サブフォルダー (例えば) X86」とを作る。

「サブフォルダー X64」に 64bit 版のソフトウェアが収納された CD/DVD の全体をコピーし、
「サブフォルダー X86」に 32bit 版のソフトウェアが収納された CD/DVD の全体をコピーする。

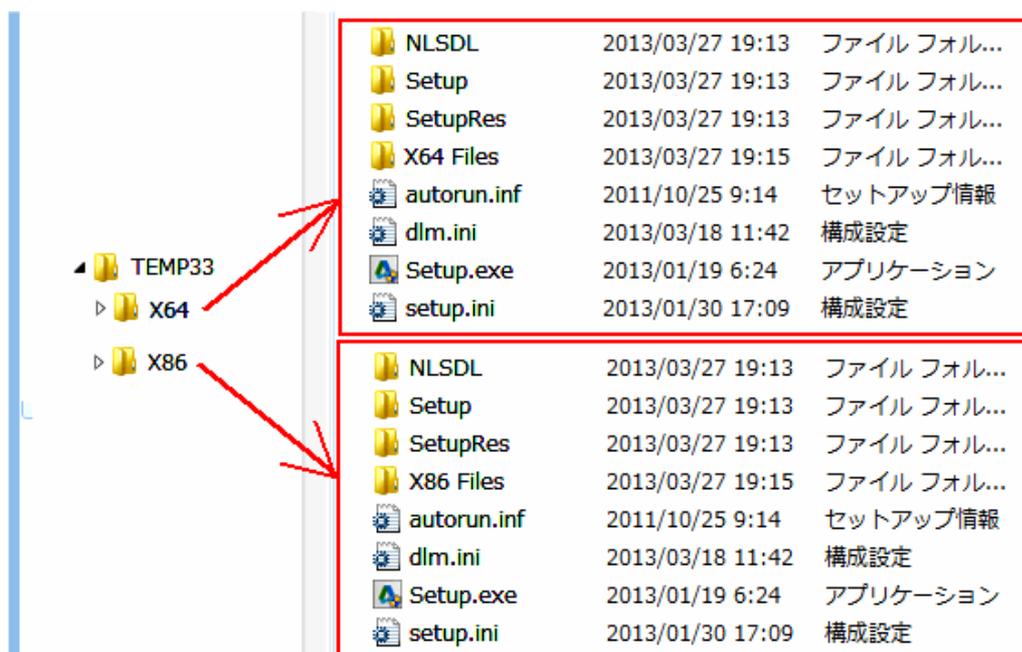
註:「サブフォルダー X64」に 64bit 版のソフトウェア(但し、ISO ファイル)を 解凍・展開しても良い。
「サブフォルダー X86」に 32bit 版のソフトウェア(但し、ISO ファイル)を 解凍・展開しても良い。

と云う事で、

TEMP33¥X64 には 64bit 版のソフトウェアが収納された CD/DVD の全体が存在する事になり、
TEMP33¥X86 には 32bit 版のソフトウェアが収納された CD/DVD の全体が存在する事になる。

TEMP33¥X64 には 64bit 版のソフトウェア用の Autorun.inf / setup.exe / setup.ini / 等 が在り、
TEMP33¥X86 には 32bit 版のソフトウェア用の Autorun.inf / setup.exe / setup.ini / 等 が在る。

下図を参照してください。



\$3. 準備(その2)

次に、「フォルダー TEMP33」に、

AUTORUN.INF
GETSETUP.EXE
GETSETUP.INI
GETSETUP.ICO

を入れる。

上記は、下図を参照してください。

AUTORUN.INF、GETSETUP.EXE、GETSETUP.ICO
は、支給されたものを、そのまま使用する。

GETSETUP.INI は、メモ帳などを用いて、自分で作成
する(下に示す例を参照してください)。



GETSETUP.INI の例 (メモ帳などを用いて、自分で作成する)

```
[Path]
x64App=X64¥¥Setup.exe
x86App=X86¥¥Setup.exe
```

64bit 版のソフトウェアが収納
されたサブフォルダー名 + 当
該ソフトウェアのインストール用
実行ファイル名、とする。

32bit 版のソフトウェアが収納されたサブフォルダー名 + 当
該ソフトウェアのインストール用実行ファイル名、とする。

「X64¥¥Setup.exe」、「X86¥¥Setup.exe」は一例であり、実際に作成する「サブフォルダー名」と、実際に存在する「当該ソフトウェアのインストール用実行ファイル名」とに依存する。

例:

- (1) 「Soft64bit」と云うサブフォルダーを作り、ここに 64bit 版のソフトウェアを入れ、このソフトウェアのインストール用実行ファイルが「set-up64.exe」であり、
 - (2) 「Soft32bit」と云うサブフォルダーを作り、ここに 32bit 版のソフトウェアを入れ、このソフトウェアのインストール用実行ファイルが「set-up32.exe」である、
- と(仮に)すれば、この場合は、GETSETUP.INI の中身は、

```
[Path]
x64App=Soft64bit¥¥set-up64.exe
x86App=Soft32bit¥¥set-up32.exe
```

となる。

\$4-1. メディアの作成 [CD/DVD]

準備が完了したら、CD/DVD を作成するソフトウェア（例えば、CDBurnerXP や ImgBurn など）を利用して、“TEMP33” に存在する所の「中身全体」を、CD/DVD に 書き込む。

註：「64bit 版のソフトウェア+32bit 版のソフトウェア」の全体が、(例え)約 8GB であっても、8.5GB の DVD メディアを使えば 問題ない（通常のソフトウェアでは、64bit 版+32bit 版で、約 8GB を超えることは 殆ど無い）。



\$4-2. メディアの作成 [USB メモリー]

CD/DVD の作成では無く、USB メモリーを作成しても良い（“TEMP33” に存在する所の「中身全体」を、「中身が空の USB メモリー」に 書き込む）。

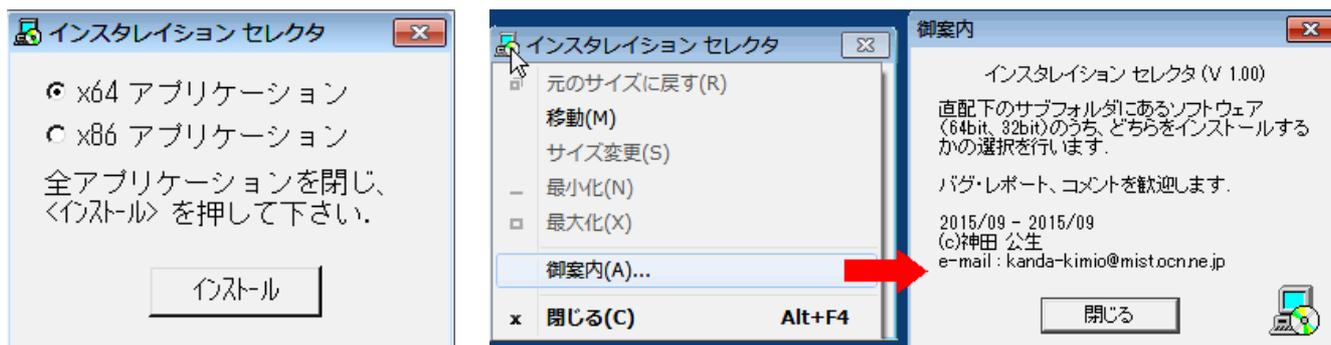


重要な註：

サブフォルダー X64 (or, X86) に、64bit (or, 32bit) 版のソフトウェアを “コピー” や “解凍・展開” した場合、そのサブフォルダの 階層数が大き過ぎると、これを CD/DVD や USB メモリーに 書き込んだ時に、(見掛け上は、書き込みが 正常完了しても) 不具合が生じ、使用不可となる事がある。

稀に存在する所の「このような特性を有するソフトウェア」では、種々の “細工” は出来ない事になる。

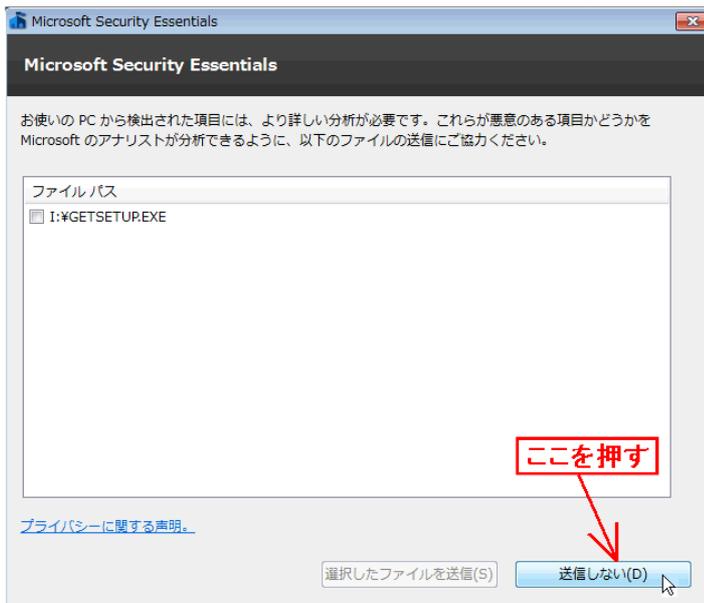
\$5. インスタレーション セレクタ の画面



註：

サブフォルダー X64 に存在する 64bit 用アプリケーションソフトウェアの持つ「setup.exe」自身が、64bit コンパイラで構築されていない場合も有り、この時には、例え OS が 32bit であっても（この「setup.exe」自身が 32bit 版なので）「setup.exe」が起動できてしまうので、注意が必要です。言い換えれば、サブフォルダー X64 に在る「64bit 用アプリケーションソフトウェア用の setup.exe」は、64bit コンパイラ で 作成すべきですね。

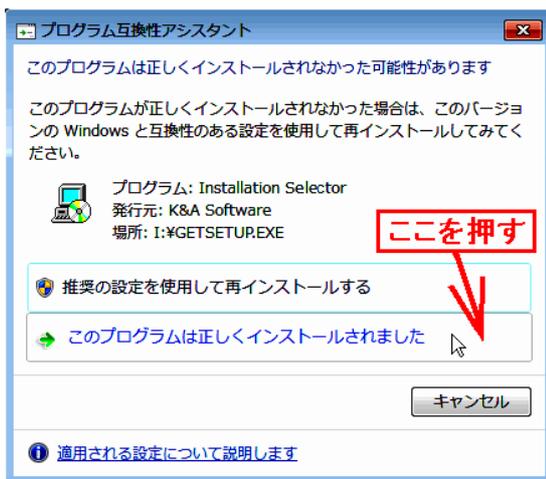
\$6-1. その他(1) --- Microsoft Security Essentials を使用している時 ---



(上記の手順でファイル類を書き込んだ所の)CD/DVD や USB メモリー を使った「初めての起動」を行った時に、左に示すような警告メッセージが出ることもある。

この場合は、「送信しない(D)」を押すのが良いと思いますが・・・。

\$6-2. その他(2)



(上記の手順でファイル類を書き込んだ所の)CD/DVD や USB メモリー を使った「初めての一連の操作」が終了した時に、左に示すような警告メッセージが出ることもある。

この場合は、「このプログラムは正しくインストールされました」を押すのが良いのです。

蛇足: 本ソフトウェアは、英語 OS の時は 表記が英語となり、英語 OS でも使えます。
英文説明書は、同梱の "How to use GETSETUP.PDF" です。